

東御市 羽毛山堤防の調査を行いました

実施：2020年12月10日 長野県東御市羽毛山地区



空から見る羽毛山地区と千曲川（ドローン撮影）



レーザースキャンによる三次元測量（協力（株）みすず総合コンサルタント様）

石積の状況などを計測、観測しました



羽毛山（はげやま）地区は、寛保2年（1742）戊の満水で千曲川、鹿曲川で大洪水となり、濁流が村を襲いました。その後も寛政3年（1791）大洪水などが続き、村を守るため、一旦堤防がつくられますが、安政6年（1859）の大洪水により堤防が流失し、大きな被害となります。その復興として文久4年（1864年）に小諸藩の援助により完成した堤防が現在の羽毛山堤防です。**昨年の台風19号の洪水にも耐え、160年の歴史を持つ、石積みできた日本の伝統的な技術に基づく治水施設です。**



河床部の観察をする 長野大学の学生

12月10日の調査は、当センターと長野県上田建設事務所の共同事業として行い、東御市、東京電力千曲川事業所、北陸地域づくり協会長野支所の参加も頂き実施しました。

調査はレーザースキャンやドローンを用いて、石積堤防を三次元測量したほか、石の形状や石の積み方などからどのように堤防がつけられたかなどを調べました。

石の積み方から堤防は一度に完成したのではなく、2、3回に分かれて積まれたか、完成後に修復工事などがあった可能性がわかりました。

調査には長野大学の学生が参加し、堤防や千曲川の状況などを観察しました。千曲川はこの付近では、河床がかなり低下してことが現地ではよくわかりますが、写真にもあるように以前の河床部とみられるところには巨石が沢山残されており過去の時代の洪水の威力が感じられます。

写真の河床付近では、今から数十万年前のアケボノゾウの足跡化石が確認されており、当センターメンバーの地質専門家の説明で観察も行いました

調査の結果は令和3年3月に報告書にまとめ、貴重な土木遺産の記録資料の1つとして残していきたいと思っております。今回の調査地に関する情報などをありましたら、ご提供頂ければ幸いです。（下記まで）

土木・環境しなの技術支援センター 事務局 メール yama3417@mx2.avis.ne.jp 担当 山浦

